

ポーランド政治クロノロジー(2011年10月)

月	内政	外交
10月	<p>3日 ジェロナ・グラにて、自動車レース後、警察車両による地元ファン死亡事故が発生し、暴動に発展。</p> <p>4日 トゥスク首相、「市民プラットフォーム」(PO)と農民党(PSL)の連立政権はポーランド史の中でも希有なほど安定した政権であったと評価。</p> <p>4日 トゥスク首相、遊説先から戻り、警察長官とジェロナ・グラでの暴動の対応を協議、国民に事態の沈静化を求める声明を発表。</p> <p>5日 コモロフスキ大統領、カピツァ新税関長官を任命。</p> <p>5日 トゥスク首相、議会選挙に勝利した場合、内務行政省、インフラ省等を改編すると発表。</p> <p>6日 コモロフスキ大統領、アウシュヴィッツ・ビルケナウ基金にポーランドとして 1000 万ユーロを提供する法案に署名。</p> <p>9日 議会選挙実施(投票率は 47.7%)。</p> <p>10日 国家選挙管理委員会、議会選挙の投票結果を公表。下院において、与党 PO が 207 議席(39.18%)、「法と正義」(PiS)が 157 議席(29.89%)、「パリコト運動」(RP)が 40 議席(10.02%)、PSL が 28 議席(8.36%)、民主左翼連合(SLD)が 27 議席(8.24%)獲得。上院においては、PO が 63 議席、PiS が 31 議席、PSL が 2 議席、無所属その他が 4 議席獲得。</p> <p>10日 トゥスク首相、パブラク副首相と連立協議。</p> <p>10日 ナピエラルスキ SLD 党首、総選挙での敗北を受け、党首再選を望まないと発言。</p> <p>11日 トゥスク首相、パブラク副首相と連立協議。同首相、年内は EU 議長国を優先し、現内閣を維持、年明けに内閣改造を行うと公言。</p> <p>11日 カチンスキ PiS 党首、党首を辞任する考えがないことを表明。</p> <p>12日 コモロフスキ大統領、トゥスク首相、カチンスキ PiS 党首と個別に選挙後の政府と政党</p>	<p>3日 ヤンドロコヴィチ・クロアチア外相、ポーランド訪問。</p> <p>3日 外務省、リビアに 6 名から成る医療チームを派遣。</p> <p>4日 アフガニスタンにおいて、IEDの爆発により、ポーランド軍兵士 1 名が死亡。</p> <p>5日 外務省、在リトアニア・ポーランド語学校への支援策を発表。</p> <p>5日 NATO 国防相会合開催(-6日、於:ブリュッセル)。</p> <p>6日 コモロフスキ大統領、トゥスク首相、シコルスキ外相、ドイツにおいてカチンスキ「法と正義」(PiS)党首が自著の中でメルケル独首相を揶揄したと報じられた件で、同党首を批判。</p> <p>6日 外務省、9日の議会選挙に、エジプト、リビア及びチュニジアより 15 名の選挙監視団を受け入れる旨発表。</p> <p>7日 コモロフスキ大統領、V4 大統領会合に出席(-8日、於:ヴィシエグラード)。</p> <p>10日 コモロフスキ大統領、ポーランド軍のアフガニスタン派遣について、2012 年 4 月 13 日まで延長することを決定。首相府から提出された第 10 次隊の派遣規模を了承。</p> <p>11日 スヘティナ下院議長、ウクライナ訪問(於:リヴィウ)。</p> <p>11日 EU・露協力会議開催(於:ワルシャワ)。</p> <p>11日 軍警察局、政府専用機墜落事故に関する調査の完了を 2012 年 4 月 10 日まで延長することを発表。</p> <p>11日 ラホフスキ国家安全保障局副長官、パキスタンのジャーナリストで安全保障問題専門家のアーメド・ラシッド氏と会談。</p> <p>12日 ヴェスターヴェレ独外相、ポーランド・独協力基金 20 周年記念式典に出席(於:ワルシャワ)。</p> <p>12日 外務省、ミャンマーにおける多数の政治犯の釈放を歓迎し、同国のさらなる改革を求める声明を发出。</p> <p>14日 トゥスク首相、V4 非公式首相会合に出席(於:プラハ)。</p> <p>18日 外務省、2006 年に誘拐されたイスラエル兵シャリート氏が解放されたことに満足の意を表明。</p> <p>18日 ポーランド、EU 議長国として EU・ASEAN ハイレベル政府会合を開催(-19日、於:ワルシャワ)。</p> <p>18日 コジェイ国家安全保障局長官、アルメニア訪問(-19日)。</p> <p>18日 EU 軍事委員会開催(-19日、於クラクフ)。</p> <p>20日 ハマド・カタール首長、ポーランド訪問(-21日)。</p> <p>20日 トゥスク首相、ポーランド EU 議長国が主催する 2014~2020 年 EU 予算に関する議員会合に出席(於:ブリュッセル)。</p>

<p>との協力につき協議。</p> <p>13日 コモロフスキ大統領, パリコトRP党首, パブラクPSL党首と協議。</p> <p>13日 トゥスク首相, コパチ現保健相を新下院議長にあてる方針を示す。</p> <p>14日 コモロフスキ大統領, ナピエラルスキSLD党首と協議。</p> <p>14日 パブラクPSL党首, POとの連立を継続すると公言。</p> <p>19日 SLD 幹部会合開催, 新議員会長にミレル元首相が選出。</p> <p>19日 カチンスキPiS党首, メルケル独首相に対する記述(外交6日付参照)が誤りであったと認める。</p> <p>20日 コピチンスキSLD議員, RPへ移籍。</p> <p>21日 トゥスク首相, ミレル SLD 新議員会長と会談。</p> <p>24日 ジョブロ欧州議員(PiS), 週刊誌のインタビューの中で, PiS 内の改革が必要と主張。ブワシチャク PiS 議員会長は, 同欧州議員の発言について党規律審査にかけると発言。</p> <p>25日 ノバク大統領府次官, 議会選挙での当選を受けて, 同職を辞任。</p> <p>25日 ブワシチャクPiS議員, 同党議員会長に再選。</p> <p>25日 カリシュ SLD 議員及びピエドルン RP 議員が同性パートナーシップ法案を下院に共同で提出すると発表。</p> <p>27日 コモロフスキ大統領, ポーランドはユーロ圏への加盟基準が満たされれば加盟すべきと発言, EU首脳会談の結論を評価。</p> <p>27日 RP, 下院の十字架を撤去する動議を下院に提出。</p> <p>28日 PSL, 次期政権における同党閣僚の続投を提案。同党議員会長にプリ議員が就任。</p> <p>29日 SLD 全国評議会開催, ナピエラルスキ党首は総選挙敗北の党首責任を認める。</p>	<p>20日 アムラニ EU「地中海のための連合」事務局長, ポーランドEU議長国が開催する「地中海のためのEU」会議に出席(-22日, 於:クラクフ)。</p> <p>20日 外務省, カダフィ死去を受けて, 新生リビアにおける民主主義建設への期待と同国への支援を表明する声明を発表。</p> <p>20日 ヴウォソヴィチ国防次官は, 欧州防衛会議を主催。</p> <p>21日 トゥスク首相, メルケル独首相と電話会談。</p> <p>21日 ポーランド, デンマーク及びキプロス(EU議長国トリオ), 非公式会合(於:クラクフ)。</p> <p>23日 トゥスク首相, ロストフスキ財務相, 欧州理事会に出席(於:ブリュッセル)。</p> <p>23日 外務省, 露はカティンの森犠牲者の名誉回復の用意があるとのラヴロフ露外相の発言を歓迎する旨発表。</p> <p>23日 アフガニスタンにおいて, IED の爆発により, ポーランド軍兵士1名が死亡, 1名が重傷, 他数名が負傷。</p> <p>24日 シコルスキ外相, リビア訪問。</p> <p>24日 EU加盟国インフラ相による東方パートナーシップのための会合開催(-25日, 於:クラクフ)。</p> <p>24日 第13回「バルト海開発フォーラム・サミット」兼第2回欧州委員会バルト海地域 EU 戦略フォーラム開催(-26日, 於:グダンスク)。</p> <p>24日 バロットイタリア陸軍参謀長, ポーランド訪問(-26日)。</p> <p>26日 トゥスク首相, 非公式欧州理事会に出席(於:ブリュッセル)。</p> <p>26日 ズドロイエフスキ文化相, 中国訪問(-31日)。</p> <p>26日 シェモニャク国防相, コジエイ国家安全保障局長官等, アフガニスタン派遣部隊を視察。</p> <p>27日 トーニング = シュミット・デンマーク首相, ポーランド訪問。</p> <p>27日 国防省, 空軍高等練習機(LIFT)導入に係る入札の中止を発表。</p> <p>28日 外務省, 在ポーランド・リビア政府代表部が大使館に昇格される旨発表。</p> <p>28日 東方パートナーシップ行政学院にて開催された初めての2週間の研修が終了(於:ワルシャワ)。</p> <p>31日 外務省, ガザ地区からイスラエル南部に向けた砲撃を非難する声明を发出。</p>
---	--